



新機能および変更された機能に関する情報

NCS 1001 のその他のコンフィギュレーション ガイドについては、『[Data Models Configuration Guide for Cisco NCS 1001](#)』および『[Telemetry Configuration Guide for Cisco NCS 1000 Series](#)』を参照してください。

次の表に、リリース 7.1.1 のコンフィギュレーション ガイドの新機能および変更点の情報をまとめ、機能が記載されている場所を示します。

表 1: 新機能および変更された機能 : **R7.1.1**

機能	説明	参照先
定期的な OTDR スキャン	自動モードでは、定期スキャンパラメータで指定された定期スキャン時間が経過するたびに OTDR スキャンが実行されます。	自動モードでの OTDR の設定
イベントに基づく自動モードでの OTDR 測定	自動モードでの OTDR 測定は、次のイベントが発生すると、TX と RX の両方向の 2 つのノード間で自動的に開始されます。 • モニター対象のファイバースパンで LOS アラームが発生し、OTDR 自動測定が有効になっている場合。 • スパン損失の現在の値とスパン損失のベースライン値の間に差がある場合。	イベントに基づく自動モードでの OTDR 測定

機能	説明	参照先
Flex-Grid サポート	グリッドレス OCM（光チャネルモニター）サポート機能が拡張され、25GHz の倍数で 50GHz ～ 800GHz のチャネル幅のトランスポンダをサポートするようになりました。	グリッドレス OCM サポート (EDFA)
EDFA の自動 OTS-OCH しきい値	増幅器機能の自動 OTS-OCH しきい値は、ノード自体に搭載されている各 EDFA（Erbium Doped Fiber Amplifier）カードで有効または無効にできます。	EDFA の自動 OTS-OCH しきい値
管理ポートでの LLDP サポート	管理インターフェイス機能での LLDP サポートでは、システムがシステム管理インターフェイスを介して LLDP ネイバーシップを形成し、LLDP ネイバー情報をアドバタイズおよび学習する必要があります。ネイバーに関するこの情報は、ネイバーについて学習し、運用、管理、およびメンテナンス（OAM）目的でデバイスのトポロジを学習するために使用できます。	管理ポートでの LLDP サポート

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。